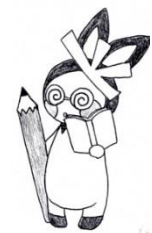


第1回学習時間調査の結果

今年度になって初めての学習時間調査がまとまったので、結果を見てみよう。(休日、予備校等を含む平均家庭学習時間)



1年⇒1.48時間 ここ数年1年生の学習時間が低下傾向にあるのは、気になるところだ。全くしない、1時間未満の人が3割近くもいるのはいかなものだろうか。逆に、2時間以上の人でも20%強もいる。学習する人と、しない人の間で大きな差が生じてくるのではないかと心配だ。

2年⇒1.34時間 (2月: 1.35時間) 前回と比べるとやや低下したが、過去4年間で見ると、それなりに学習しているといえるだろう。まだ中だるみには陥っていないので、この調子で頑張っておきたい。ただ、ベネッセのデータによると、偏差値55以上の高校における平日の学習平均は105分だとか。本校は81分なので、まだ足りないのではないかな。

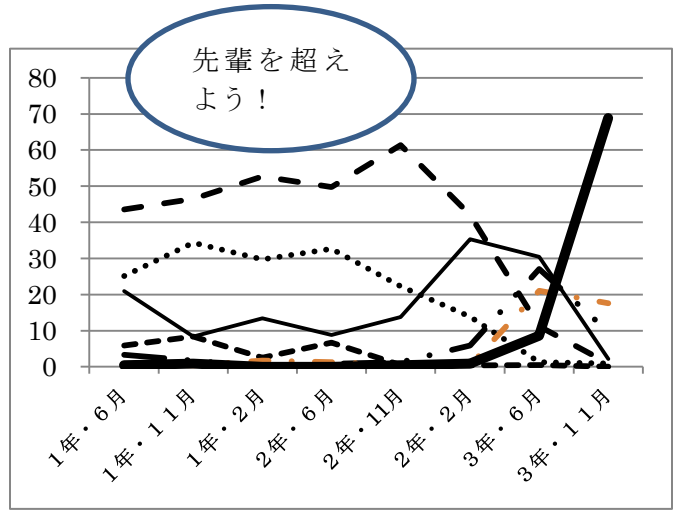
3年⇒2.64時間 (2月: 1.74時間) これまでずっと前年を上回ってきたが、今回は初めて下回ってしまった。これまで頑張ってきて少し疲れてしまったのだろうか。とはいえ、部活も終わり、全国の3年生が受験勉強を開始しているので、のんびりしている暇はない。学習時間の目安は一般に「1年⇒2時間、2年⇒3時間、3年⇒5時間」といわれるので、5時間に満たない人は奮起しよう！

さて…… 6月における学習時間の過年度推移を見てみると (順に、25年⇒26年⇒27年⇒28年⇒29年)

1年⇒[1.29時間→1.48時間→1.53時間→1.5時間→1.48時間]
 2年⇒[0.99時間→1.14時間→1.22時間→1.31時間→1.34時間]
 3年⇒[2.55時間→2.42時間→2.31時間→3.3時間→2.64時間]

昨年と比べると、やはり3年生の低下が懸念される。次回の調査は11月だが、その時には下のグラフのように**太字の5時間以上が一気に伸びていなければならない**。(昨年の3年生のデータ)今回、下がってしまったのだから、これを超えるつもりで学習に取り組んでほしい。

国公立を第1志望にした方がMARCHに受かりやすいという嘘のような本当の話



前回、早慶上理を第1志望にしてMARCHに受かった人**78%**、MARCHを第1志望にしてMARCHに受かった人**22%**。早慶上理を第1志望にした方がMARCHに受かりやすいという話をしたが、今回は国公立大とMARCHの関係についても調べてみた。すると、やはり同じような結果となった。

国公立を第1志望にしてGMARCHを受けた者69名。うちGMARCHに1校でも受かった者46名。**合格率67%**！

国公立に受かり、GMARCHにも1校でも受かった者、25名中22名。**合格率88%**
 国公立には落ちたけれども、GMARCHに1校でも受かった者、44名中24名。**合格率55%**

やはり「志望を高く持った方がMARCHは受かりやすい」ということだ。

LINEの使用時間が増えるほど成績低下！？

前回、スマホの利用時間が増えると成績が低下するという記事を紹介したが、中でもLINEは問題があるという。<http://ure.pia.co.jp/articles/-/63696?page=2>より引用する。

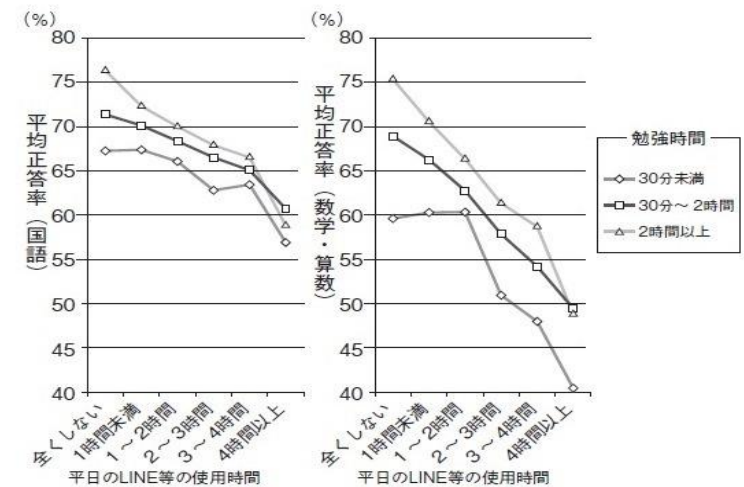
え！勉強してもスマホやLINEで台無しに!? 東北大学の調査結果がいま衝撃を呼んでいます。今回は話題の新書『やってはいけない脳の習慣』の著者、横田晋務先生に、最新の脳研究結果から得られた「スマホ使用と子ども学力低下の関係性」についてお話を伺いました。

横田「そして更に、私も正直驚いたのがLINEなどの通信アプリによる影響です。スマホの場合と同様に、勉強時間の長さに関係なく**LINEの使用時間が増えるほど成績が下がってしまう**のですが、**スマホよりも下がり幅が急**です。せっかく一生懸命勉強をしてもLINEを使用すると、その分の学力効果は打ち消されてしまうとは……。なんとも予想外でした」

—どんなに勉強してもLINEを長時間使用していたら、使用しない子どもよりも成績が下がってしまうという結果はもとより、**LINE等は使うことをやめても、一度使ったことがあれば学力は上がらない**という調査結果にも驚きを隠せないのですが……。

横田「受験のためにスマホ断ちするという話も聞きますが、使用禁止で本当に学力が向上するかという調査も行いました。そこで見えたのは、**たとえLINEをやめても以前に長時間使っていた子どもたちは、成績が上がっていない**という結果でした。

そして、大学生に行った“LINE条件での連続遂行課題テストでも集中力の差が顕著に現れました。どんなメッセージがきているんだろう。どんな話の話題になっているんだろう。返信しないと嫌われてしまわないだろうか。仲間はズレにされないだろうか、など色々な考えが頭に浮かびやすい人ほど、“社会不安”と呼ばれる傾向が強く、集中力に与える影響が大きいと考えられますし、思春期の子どもたちなら、より強く現れることは容易に想像できます。



そして、脳内で何が起きているかという、スマホの使用習慣の強さと前帯状回（注意の集中や切り替え、衝動的な行動を抑えるという機能に関わる領域のひとつ）という部分の小ささが関係していることが分かっています。LINEを習慣的に長時間使っていると脳の形が変わってしまい、集中力や注意力の低下に繋がると考えられます」

→かなり衝撃的な研究結果だが、みんなはどう思う？

連絡

【3年生】7/12(水)夏の学習法説明会(講師は駿台の方) 7/19(水)センター試験・推薦説明会。

【2年生】7/7(木)大学模擬授業 7/13(木)模試 【1年生】7/13(木)模試

■夏期講習について

1、2年生夏期講習提示6/26(月)7/7(金)申込締切。

3年生による夏期講習 講師募集中！ 締切6/30(金)まで。



■7/13(木)の1、2年模試では以下を目標にしてほしい。

進研模試で求められる得点

国公立大(英数国300点満点)	得点	得点率
東京大・京都大・国公立医学部	210点以上	約70%以上
難関国公立大(旧帝国大等)	180点以上	約60%以上
国公立ブロック大(千葉、横国等)	170点以上	約55%以上
地元国立大	150点以上	約48%以上

私立大(英国・国英)	国英200点	数英200点	得点率
早慶上智	120点以上	125点以上	約60%
MARCH	103点以上	105点以上	約51%
日東駒専	74点以上	72点以上	約36%

受験格言

■「もっと勉強しておけばよかった……」という話はよく聞かすが、勉強して後悔したという話は聞いたことがない。

■夢は逃げない。逃げるのはいつも自分。

■いま勉強してつらいのは大学に入るまで。勉強しなかったことでつらいのは死ぬまで。

■合格したからといって未来が約束されるわけではないが、合格するまでの努力と経験は未来でも必ず役に立つ。

■努力した者が全て報われるとは限らない。しかし、成功した者は皆すべからく努力している。

■落ちこぼれだって必死に努力すれば、エリートを超えることもある。

閑話休題 働くということ(前編)

最近では「7、5、3ショック」といわれ、中卒で7割、高卒で5割、大卒で3割の人が就職してから3年目までに辞めてしまう。それぞれ理由はあるのだろうが、転職しても待遇が良くなるケースは少ないという。では、

どうすればいいのか。自分に合わない仕事でも我慢して続けなければならないのだろうか。そのヒントになる話を紹介する。(数年前に紹介して好評だった話。みんながこれから生きていく上での参考になると思うので、再掲する)

あるレジ打ちの女性の話



■『その女性は、何をしても続かない人でした。田舎から東京の大学に来て、部活やサークルに入るのは良いですが、すぐイヤになって次々と所属を変えていくような人だったのです。

そんな彼女にも、やがて就職の時期がきました。最初、彼女はメーカー系の企業に就職しますが、3か月もしないうちに、やめてしまいました。次に選んだ就職先である物流会社も次に入った医療事務の仕事も、半年ほどでやめてしまいました。

■そんなことを繰り返すうちに彼女の履歴書は、入社と退社の経歴がズラッと並ぶようになっていました。

すると、そういう内容の履歴書では、正社員に雇ってくれる会社がなくなってきます。結局彼女は、派遣会社に登録しました。

ところが派遣も勤まりません。イヤなことがあればその仕事をやめてしまうのです。また履歴書に派遣先のリストが長々と書かれるようになりました。

ある日のことです。新しい仕事先の紹介が届きました。スーパーでレジを打つ仕事でした。当時のレジスターは、値段をいちいちキーボードに打ち込まなくてはならず、多少はタイピングの訓練を必要とする仕事でした。

ところが、勤めて1週間もするうち、彼女はレジ打ちにあきてしまいました。

■彼女は辞表を作ってみたものの、決心をつけかねていました。するとそこへ、お母さんから電話がかかってきました。「帰っておいでよ」受話器の向こうから、お母さんのやさしい声が聞こえてきます。

■彼女は田舎に帰ることを決め、片づけを始めました。すると、机の引出しの奥から1冊のノートが出てきました。小さい頃書きつづった大切な日記でした。パラパラとめくっているうち、彼女は「私はピアニストになりたい」と書かれているページを発見したのです。

そう、彼女の小学校時代の夢です。「そうだ、あの頃、私はピアニストになりたいくて、練習をがんばっていたんだ」

「あんなに希望に燃えていた自分が今はどうだろうか。履歴書には、やめてきた会社がいくつも並ぶだけ。

自分が悪いのはわかっているけど、なんて情けないんだろう。そして私は、また今の仕事から逃げようとしている……」

そして彼女は日記を閉じ、泣きながらお母さんにこう電話したのです。

「お母さん、私、もう少しここでがんばってみる」

→次号につづく